

開催地名：神奈川県平塚市	
開催日時	令和 5 年 1 月 14 日（土） 13：30 ～ 15：30
開催場所	平塚市教育会館
語り部	草 貴子 （宮城県仙台市）
参加者	平塚市民 70 名
開催経緯	本市では、災害時におけるボランティアの活動及び市民の自主的な防災活動を普及・促進するため、また災害への備えの充実・強化を図ることをテーマに、広く市民を対象に、毎年 1 月頃に「防災講演会」または「防災フォーラム」を開催してきており、今日に至る。しかし、自助・共助の普及・啓発や女性目線での防災については、不十分であり課題となっている。
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>もう間もなく阪神淡路大震災が発災して 28 年、東日本大震災が発災して 12 年になり、これらの震災を知らない世代が増えてきてきた。これまでよりも、むしろこれからが、これらの震災を伝承していく正念場であると、私は認識している。いつどこで発生するか予測不能である自然災害に対し、どのような活動をすれば防災、減災につながるのか、これからお話しする私たちがこれまで取り組んできた活動を参考に、皆さん各自が考えるきっかけにさせていただければと思う。</p> <p>（２）東日本大震災以前の状況</p> <p>震災当時、私は宮城県仙台市泉区市名坂に住んでおり、町内会を運営していた。仙台市泉区は 100 万都市仙台の副都心で、人口は 21 万 5 千人である。泉区は内陸部であるため、幸いにして津波の被害は免れた。</p> <p>市名坂東町内会は、仙台市の泉区東部に平成 20 年設立された。働き盛りの 40 代、50 代の家庭や単身赴任の家庭が多い中で、女性が中心となって立ち上げた組織である。役員 9 名が全員女性であること、集会所設立のために銀行ローンを組んだということは、仙台市初の試みだった。行事はなるべく卒業式、入学式、転勤、引っ越し、受験の時期を避けるように設定し、月 1 回実施している役員会も、あくまでも任意で、できることを無理なく行うこととして活動をしていた。地区の指定避難場所は町内から 2 キロ離れた小学校であるため、平成 22 年に完成した集会所は、最初から緊急時の避難場所として防災上の観点を強く意識し、オール電化の導入や収納の高さを女性の腰に合わせたり、トイレを 2 箇所設置するなどの工夫を凝らした。</p> <p>（２）震災時の状況と対応</p> <p>3 月 11 日の午後 2 時 46 分、近所の電気店で買い物中、地震に見舞われた。立ってられないほどの強い揺れがあり、ガラスの割れる音、人の悲鳴、天井が落ちる中、夢中で外に出た。建物も電柱も倒れそうで、車は上下に動いた。発災後、すぐに避難をした。避難先では避難者の中からリーダーとサブリーダーを決め、町内会はサポートするかたちで運営に入った。リーダーとサブリーダーの指示に従うようお願いし、「指示に従わない人は出ていって構いません」とアナウンスしたところ、出て行ったご夫婦もいた。電気は 2 ～ 3 日、水道は 3</p>

～4日、ガスは1カ月で復旧した。卓上コンロを使って、各自で持ち寄った材料で子どもたちが料理をつくるなど、ほのぼのとした時間も取れた。支援物資の引き取りの支援を受けたのは12日と13日の2日間だけで、その後は各家庭で対応していただいた。非常事態の避難所で、思いがけず優しい言葉をかけてくれる方もいれば、自分の権利主張だけをする人もいる。外国人の方の食べ物の問題や、宗教的な問題など、普段の生活では気付かないことにも直面し、とてもいい経験ができたと感じている。

#### (4) 震災をふまえての活動

町内会では、平成23年11月から未就学児を持つ若い母子を対象に子育て支援を開始した。平成24年4月には、町内会として「全国おもちゃ図書館」に申請し、「おもちゃ図書館ずんだっ子」が誕生した。災害時に備えたまちづくりに関しては、毎年1回しているお祭りの中で、防災訓練を開催している。煙を炊いての濃煙体験をはじめ、防災減災に関するクイズや消火訓練を実施して、お祭りの収益金の一部を津波遺児に寄付している。

行政にできることは限られているので、避難所の運営方法等は私たちが考えなければならない。地域防災で大事なことは、自分たちの地域の特性を考えて、オリジナリティのある身の丈に合ったことを実践することだと思う。また、100人の友人を持つことも素晴らしいことであるが、心から信頼できる数名の仲間がいれば、苦しい時やつらい時にとても心強いということを、震災で改めて認識した。私たちは今、お互いに助け合い、支えあって、共に生きていく仲間づくりができればいいと考え、様々な活動を進めている。

最後になるが、逃げることも避難所のお世話も、防災・減災を考えるにしても、健康な体がなくは何もできない。足腰を鍛えて、元気な体で地域での活動に邁進していただきたいと思う。



開催地より

東日本大震災を経験された語り部から、自主防災組織（町内会）の活動内容や避難所運営についての具体的なお話を聞くことができた。本日の講演を受けて本市では、市民への自助・共助の推進と避難所配備職員に向けた研修の実施を進めていきたいと思う。